

（議事について、事務局より説明）

（会議の公開を決定）

議題 かながわ文化芸術振興計画の改定の骨子案について

事務局から資料 1-1～1-2 について説明後、次のとおり審議を行った。

○伊藤会長

それでは、質疑に移るが、現行計画の主な内容については、この後の素案の議論でしていく。改定の背景については、これまでの議論でいくつか意見が出て、コロナウイルスを契機にオンラインなど新しい動きが出たことや、子どもの問題等について修正が加わったところである。これらを踏まえて、意見があればお願いしたい。

○関口委員

委員になって2回目の審議会のため、過去に議論があったのかもしれないが、（ア）に東京オリンピック・パラリンピックのことが書いてあるが、レガシーというほどのものが神奈川県としてあったのかどうか、個人的には気になる。入れる必要があるのかどうか意見を伺いたい。

○事務局（赤池文化課長）

オリンピック・パラリンピックに際して、組織委員会が主催する文化プログラム東京 2020NIPPON フェスティバルというものがあったが、組織委員会による主催事業と、都道府県や団体等が選考されて実施する共催事業があり、本県事業は、いずれも選考された。主催事業においては、県が「ともに生きる社会かながわ」の実現に向けて取り組んでいることが認められ、地方公共団体では唯一、主催事業に参画した。この経緯もあり、この趣旨を踏まえた取組を続けていくことは重要と考えており、記載したものである。

○関口委員

その成果自体はよいことであると思う。説明を聞かなくてもその成果がわかるような表現にしてくださいとよいと思う。

○伊藤会長

これまでに審議会でも、オリンピック・パラリンピックに際して、県としてどのような実績があったのかは報告をさせていただいてきたところである。可能な範囲で、骨子案資料上の記載ももう少し具体的にしていただけるとわかりやすくなると思うので、検討いただきたい。

○中村委員

これまでの文化芸術を取り巻く状況の変化の新旧対照表では、冒頭に NIPPON フェスティバルのことが詳しく書かれていたが、この資料上には冒頭がない。この資料では省略されただけなのか、そのあたりを教えていただきたい。

○事務局（赤池文化課長）

この資料は骨子案という事で計画の概要を示すものであり、省略されている。今後の計画素案では御指摘の省略された冒頭も入る。

○伊藤会長

国の計画について、資料 1-2 の中に触れられており、参考資料 1 としても概要版が用意されている。石田副会長より、ポイントの説明をお願いしたい。

○石田副会長

参考資料1は国が策定した新たな基本計画の概要である。これを策定した文化審議会文化政策部会の委員を務めていたので、内容を説明する。副題に価値創造と社会経済の活性化とあるとおり、議論の中で文化芸術の価値が話題になった。3つの価値として、本質的価値、社会的・経済的価値に言及され、これらが循環していくことが望ましいということで、様々な観点で議論が行われた。前文でジャンル等に触れ、第1部ではコロナ禍を経て社会がどう変わったかをまとめている。第2部では前計画での達成状況がまとめられ、第3部以降が新たな計画の主な内容になるが、中長期目標が4つ、重点取組が7つ、施策群という構成になっている。中長期目標は前計画を踏襲しており、ほとんど内容は変わらない。重点取組はポストコロナの時代にどのような活動を推進していくのかという事が書かれているが、特徴的な言葉としては、創造的な文化芸術活動、文化資源の保存と活用、子ども、多様性、グローバル展開、地方創生、デジタルといったところ。世界的にも言われている課題を落とし込んでいく。施策群は、国として実施している施策を、コロナ禍を経て整理している。令和5年3月にこの計画は閣議決定され、4月より有効なものとして推進されている。これに基づいて、国の様々な施策が展開されていく。

○伊藤会長

国と県では違った視点が必要だと思う。重なる部分があれば、異なる点もある。あとの素案の議論の中で、必要があれば国の計画も踏まえて議論いただければと思う。骨子案については、先ほどのレガシーのところについて、具体的なポイントを追加する修正のみお願いしたい。では、時間の都合もあり、次の議題に移る。

議題 かながわ文化芸術振興計画改定素案作成に向けた整理について
事務局から資料2-1～2-3について説明後、次のとおり審議を行った。

○伊藤会長

それでは、質疑していきたいと思うが、まず、重点施策1について、意見があればお願いします。

○平本委員

全体に関わる意見であるが、連携という言葉が頻出する。キーワードかと感じているが、具体的にはどのような形で市町村、団体、県庁内の関連部局と連携するのか、情報交換程度なのか、共に事業を行うのかなど、教えていただきたい。

○事務局（赤池文化課長）

まず団体や市町村との連携であるが、例えば団体が行う事業について、県が負担金を支出し、一緒に実施するとか、ワークショップについては、相模人形芝居であれば、地元の市町村の協力も得ながら、高校で実施するといったことを行っている。また、教育局との連携であれば、ワークショップを高校で行っていることをはじめ、公演事業などは文化課で実施しているが、法に基づく文化財の指定等の関係は教育局が実施するなど、役割分担を踏まえつつ、連携して取り組んでいる。

○平本委員

重点施策1の中に、後世に残す伝統的な文化の記録の保存とあるが、教育委員会の文化財関係で、文化財保護条例の中でも、指定文化財以外についても重要と認めるものについては記録の保存をするとされていると思う。教育委員会所管の部分ともリンクするように、相乗効果が生まれるとよい。

○事務局（赤池文化課長）

文化の記録の保存について、令和3年度の実績を申し上げますと、鹿島踊りの記録の保存の取組を教育局で行っている。この取組を当計画の事業実績として位置付けているところであり、連携している。

○平本委員

今後も中身のある連携を続けていただきたい。

○伊藤会長

続いて、重点施策2について、質疑があればお願いしたい。これまでも多くの意見が出たところであるが、今回から若者という言葉が入り、子どもというと小中学校のイメージが強いが、高校、大学などの年代も含めた青少年についても対象として見えやすくなったように思う。

○井上委員

前回、部活動について発言させていただいたが、この審議会でも地域移行についてはかなり大きな問題があるという認識を共有できるのではないかと思う。その中の最大の問題はおそらく文化系の部活動に対する配慮がないというか、地域移行がスポーツ中心で進行しているということに対する懸念だと思う。参考資料2を見ると別表2、地域移行についての会議の構成団体の中に文化団体が非常に少ない。スポーツ団体が圧倒的に多くて、文化団体が少ないというのは非常に懸念を感じている。これを文言として批判的に計画に入れるのは難しいと思うので、例えば文化芸術系の部活動に特有な何かを踏まえたとか、配慮したというような文言がどこかに入ると、我々の今のこの審議の懸念が伝わるのではないかと思うがいかがか。

○事務局（赤池文化課長）

部活動の地域移行について、今取り組んでいるのが、公立の中学校の部活である。具体的には、横浜などの都市部と、それ以外では進め方が違ってくると思うので、今は市町村の意向を大切にしながら方針の策定をしていくところである。まだそのニーズを把握できるほど取組が進んでいないので、今の段階で細かくお示しできないところも課題だとは思っているが、見えてきた段階で対応していきたいと思っている。

○井上委員

その状況については私も把握しているつもりである。今申し上げているのは、スポーツ中心に動いていることに対して、文化団体の方からの、私どもの方も配慮していただきたいというような文言がどこかがあると、全体的な施策の動き方の中でも、配慮がなされるのではないかと考え、発言させていただいた。

○事務局（赤池文化課長）

その検討会において、大きな方針を取りまとめているところ。まだ案をお示しできる段階ではないが、今後中身にはスポーツだけではなく文化のことについても記載していくことになるので、その点では御安心いただけるかと思われる。

○伊藤会長

確かに検討委員の中に文化系が少なく、ほとんどがスポーツというのは気になる。文化系も忘れないでほしいとお伝えいただければと思う。関連しての情報だが、私は市町村の方の審議会もやっている。そこでも文化部活動の地域移行が話題になった時に、率直な声が出たけれども、文

化関係の部活は子どもたちがあまり熱心でなく、ほとんど休眠状況になっているとのことである。スポーツは結構盛んであるけれども。地域移行の前に、文化部活動の活性化を考えて欲しいみたいな声結構出た。その辺も含めて、どうしてもスポーツ中心になってしまうという印象を持った。

○井上委員

現場にいる当事者として、この地域移行が、どんどん世論の中でも声が高まってきている中において、私が行っている学校だと、もう土日の活動はやめよう、というような方法になったりもしている。もちろん大会は土日でないといけないところがあるけれども、昨年度までは土曜日も活動をしていたが、今年度から土曜日の活動がなくなった。それが果たして本当によいのかなというのは正直思っているところ。確かに家庭の負担とか教員の負担とか減っているとは思いますが、子どもたちの活動時間がすごく減っている。土曜日の午前中に集中的に時間を取りましょうという活動をしたところ、平日の活動しかできなくなった状況で、子どもたちは、平日は塾とかでかなり忙しいため、みんなで集まる時間がなくなったということがあって、果たしてそれが本当に子供たちにとってよい形になっているのかというのは現場にいる感覚としては持っている。表現が的確かわからないが、文化芸術の活動に参加する子どもたちがどっちかという、全体的に引込みがちで、自分たちのうちに秘めたものを密かに表現したいという子どもが多いものである。そういう人たちに對する、地域移行の際の配慮がなされることを期待する。

○伊藤会長

地域移行の問題はこれから先ずっとついてくる問題だと思うので、今回の計画の中に何か一つ印を残しとして、また次の改定時にはもっと大きな形で議論が入ってくるかもしれないので、今日出た御意見を頭に置いて、そういうニュアンスを付け加えることができれば修正をお願いしたいと思う。

○平本委員

地域移行に関連して、地域で担っていく形について、クラブ活動ということではではないと思うが、地域の人たちが伝統文化、伝統芸能等を子どもたちに伝えていく取組の例はいくつかある。神楽や人形芝居など。文化庁が行っている「伝統文化親子教室事業」は、長くやっているかと思うけれども、プロの方とか、専門の講師等の派遣があり、文化庁の補助があって、子どもたちが一流の伝統文化を体験できるという事業もある。そういうものを含めて、参考にして、それを生かすような形でもしてもらえればよいのではないかとも思う。いきなりその地域の方にクラブ活動でとなると、それを担う人たちもなかなか大変かと思うので、そういったものを少しずつやりながら、全体を少し大きくしていくなど、そのような流れを作っていくらどうかと思っている。伝統文化の親子教室は、市町村側から声を上げて申し込みをしていく形、団体が市町村に相談してあげていく形になっているため、その辺を、市町村との連携という形になるけれども、文化庁のこの事業を生かしていくらどうかと思った。

○事務局（赤池文化課長）

おっしゃっていただいた国のメニューの一つを活用し、「伝統文化こども歳時記」という事業をしている。昨年は、浴衣を着て日本舞踊を踊ることや、講談をするワークショップを行った。参加している子どもたちも楽しそうであり、こういう経験で楽しかったと思うと、またいろんな機会の時に伝統文化を継続して後継してくださる方のきっかけづくりとしてはよいと思っている。こういった事業も引き続き行うため、市町村との連携についても改めて勉強していきたい。

○伊藤会長

重点施策3、重点施策4について意見があればお願いします。在住外国籍県民については、あらゆる人の文化芸術活動という点では重点3、外国の多文化理解と点では重点4に位置付けることで考えているが、その点も踏まえて意見はあるか。

○塚田委員

重点施策3について、細かいことだが、課題の文章の中ほどにおいて、「ツールとして期待されており」とあるが、「ツールとして“も”」ではないか。“も”がないと文化芸術イコール社会的課題の解決ツールになってしまう。これは言いすぎである感じを覚える。

○平本委員

重点施策4について、遼寧省、京畿道、ベトナムが並列で記載されているが、これらはレベル感として合っているか。地域と国名との併記について、整理すべきかと思う。

○中村委員

重点施策3の見出しと課題の最終段落冒頭の表現について、課題の表現がよいと思う。見出しにもこの表現が反映されるとよい。外国籍県民についても、外国にルーツのある人といった表現の方がよいのか、行政内部の他の施策との関連もあるが、どちらがよいのか確認は必要。

○久野委員

重点施策3の見出しと目指す方向性に書かれている内容を合わせた方がよいのではないか。見出しを見ると高齢者・障がい者等の文化芸術活動の充実が大事だと読み取れるが、目指す方向性には「あらゆる人が文化芸術に触れられる」とあり、これまでの県の共生社会の実現に向けた取組も踏まえた重点施策であると思うので、「共生」の言葉を入れるなどはいかがか。

○石田副会長

共生という言葉は神奈川県姿勢を示すのに効果的だと思うため、その方向の検討ができることよりよいと思う。重点施策3の取組内容中に「すべて」や、「あらゆる」と表現が統一されていない点と、「音楽鑑賞事業」と「ワークショップ」などの表現の整理はどのような理由によるものか。

○事務局（赤池文化課長）

前者について、重点施策3の主旨の表現に適しているのは「あらゆる」であると考えている。「すべて」については、「共生共創事業」の定義として、一律にこの表現を使用することで整理しているためである。後者の質問は、具体的な取組の例示であり、このような表現としている。

○石田副会長

理由を聞けば納得するが、一見したときに気になるので、前者については、表現の整理を検討していただきたい。後者については、具体と事業であれば、理解する。

○秋山委員

重点施策4に文化施設を活用した文化観光の促進とあるが、これはどういうことを意味しているのか。文化施設にも様々なものがあるが、施設を観光資源として活用というよりも、施設における活動を観光資源としてということではないかと思ったところ。

○事務局（中里マグカル担当課長）

例えば、前川建築である県立音楽堂については、その建物自体も観光資源として活用できる面も

あり、それを活用した観光の促進をしていくという意味で位置付けている。

○秋山委員

説明を伺うまではピンとこないところもある。うまく説明できるような記載を検討していただければと思う。

○関口委員

重点施策の並びについて、重点施策1が最優先というように見えてしまう。最近の状況を踏まえると、子どもや高齢者・障がい者等が上に来た方がしっくりくると感じる。

○事務局（赤池文化課長）

優先度をつけることは難しく、各内容の当事者にとってはその内容が一番重要という事になるかと思う。現在は条例の順序を踏まえた並びで整理しており、重点施策1が最優先ということではない。

○伊藤会長

数字が若いほど優先という意味ではないことが説明され、本日の審議会の議事録にも残ることとなるので、それでよいかと思う。では、時間の都合もあり、次の議題に移る。

議題 神奈川県文化芸術振興条例の見直しについて

事務局から資料23について説明後、次のとおり審議を行った。

○伊藤会長

条例というのは、自治体における法律であって、それに基づいて当審議会も運営されているところである。頻繁に変えるものではないが、社会状況の変化等を踏まえて修正すべきものは修正すべきと考えている。県の条例には定期的な見直しをすることの規定もあり、このように見直しをしているところである。条例全般についての意見や、各論の整理について、過去の審議会資料も参考資料として用意いただいているので、必要に応じてそれらも振り返りながら議論したい。本日、議論する総論については、条例の改正は必要なしという県の判断が示されており、ものによっては計画や予算事業により対応するということである。この内容について、意見があればお願いします。

○井上委員

議論と外れるかもしれないが、個人的に最近考えていることとして、国の基本計画の方でも文化芸術の価値というものがすごく議論されているよう中で、それが余りにも行き過ぎると、文化芸術には価値のないものはなくてもよいみたいな議論に行きかねないという懸念がある。演劇の世界なんかもお客が入らない公演なんてやって意味があるのかという意見もあり、果たしてそれがどこまでいっちゃうのだろうかという懸念を持っている。現行の県の条例を見ると、そこまでの行き過ぎがなくて価値という言葉も最小限になっていると思うので、できればそういう方向で、条例が位置付けされると、今後も文化芸術の中に生きる人間としては生きやすくなるかなという気はしているところである。

○平本委員

条例に問題はないかと思う。条例では理念的なものを大きく定め、計画の中でより細かく整理していけばよいと思う。

○伊藤会長

他に意見は無いようなので、このあたりで議論を終える。本日配付された過去の条例検討資料についても、改めて目を通して見て、質問があれば次回の審議会でも確認はできると思うので、本日までには条例の改正はしないという事について概ね了承と整理し、最終的には次回の審議会で決定することとしたい。では、次第の「その他」から説明をお願いします。

その他 文化芸術振興審議会団体助成部会の実施状況について 事務局から参考資料5について説明。

○伊藤会長

質問は特にないか。団体助成部会に参加されている秋山委員から補足等あればお願いしたい。

○秋山委員

コロナも終わってきて、開催状況がかわってきていることは議論になった。開催できる活動が増えたことで、申請も増えてきた。その中で、今回はこのような結果となった。

○伊藤会長

県の方で、ほかに補助金の事業はあるか。

○事務局（中里マグカル担当課長）

昨年度新設した、マグカル展開促進補助金というものがある。県内で文化芸術団体が新たに行う活動に対し補助を行っており、上限額は100万円、補助率は3分の1であるが、高齢者や障がい者、伝統芸能等の特定の分野に関する活動については、特例として上限額や補助率の引き上げを行っている。

○伊藤会長

その他、特に御意見がなければ本日は終了とする。

審議会後、追加意見

○内田委員

重点施策5に情報発信などの支援を位置付けているが、情報発信だけではなく、企画段階でのフォローも必要ではないかと感じている。参加してみたいくなるコンテンツ作りという意味で、将来的にはマーケティング的なことを学ぶ機会を提供するところまで踏み込めたら大きな変化が生まれるのではないかと。